

教えてください
今から六十四年前のこと

終戦当時、生まれていた方々にアンケートをお願いしました。たいへん短い時間で書いていただきましたが、たくさんのお切なことを教えていただきました。ありがとうございます。

- ① 1945年8月15日 何歳でしたか？
- ② 何をしていましたか？
- ③ 若い世代・子どもたちへ…今伝えたいこと

伊藤 直美

- ① 1歳5ヶ月
- ② 私の家はクリスチャンファミリー。アメリカの伝道者たちは国に帰され、教会を守る私の家は憲兵が何人もいて、兄や姉たちは皆からスパイの子と指さされ父と母は祈りその中で私はスヤスヤと眠っていたと言われています。
- ③ もっと身近な幸せを感じてください。それが世界サイズの平和につながるのではないかしら。
父母のまなざし
おじいさん・おばあさんの心くばり
お陽さまのかがやき
雲の流れ
雨の幸せ 土のかおり
花の美しさ
友だちの友情
いとこたちとの楽しい交わり
教会っていいな。



- ① 8歳
- ② 焼け跡でおままごとに使えぬ物をさがしていた。

浅井 恵美子

松山 令子

- ① 9歳
- ② 爆弾の音、サイレンの音から解放されても戦争の傷跡の大きさには目をそむけたくな思いでした。また戦争が起ころのではと怖かった。
- ③ 戦争が終わって64年。人間と人間が戦い、命をなくす戦争はあつてはならないではないです。鹿児島と沖縄の中間に奄美大島がある。沖縄の首里に日本軍の本部があったため、そこへ向かう途中、まだ交通機関は船だけでしたので港に避難している船舶へ一日に何回となく爆弾を落とす。昼間は、ほとんど防空壕の生活でしたが、通学の時、草むら、木の枝にかくれてたが、それでも人影は見逃さなかった。今でも目に焼き付いている白いかっぱ着姿の女性たち子どもから大人まで村の全員が日の丸の旗をふって戦場へ行く。まだ十代の子どもの手を強く握り、「行ってきます」という言葉に親からの返事はなかった…すすり泣く声だけ。

浅井 恒雄

- ① 10歳
- ② 太鼓橋の上から見ると、右はロシア軍、左は日本軍守備軍隊の陣。一触即発の状態の終戦の日。その後、日本は捕虜になってシベリアへ連れて行かれた。
- ③ 戦争と平和

- ① 10歳
- ② 小学校4年生
- ③ 他者を思いやる心、物を大事にすること

坂本なつよ

牧野 邦子

- ① 11歳
- ② 小学校夏休み中、動物(うさぎ)の飼育係当番で学友5人と裏山に草取りに出かけていました。

大瀧 慧

- ① 12歳
- ② 東京で空襲にあい、家を焼かれた後、母の実家(長野県更埴市)の世話になりながら現在の中一(女学校1年生)の生活をしていました。田畑の仕事を手伝っていました。
- ③ 戦争の恐ろしさを身に味わったものとして、どんなことがあっても戦争に反対します。地雷とかの小さなものから原爆に至るまで人が人を殺そうとしてつくる武器のことを考えると、悲しくなります。生きている間に、再び戦争が起きるようなことになったら、その時は必ず絶対反対の運動員のひとりになる覚悟があります。私自身の弱さから恐怖であったとしても、罪のない幼い子どもをあのようないや、もつとすこい恐怖に落とし入れることをすることがどうして許されるのでしょうか？決して許されな思っています。主イエス・キリストによっていただける平和、その希望について、今朝、み言をいただきました。感謝です。感謝しつつ、皆様と一緒に主イエス・キリストを宣べ伝えることに、教会を通して頑張っていきたいと思えます。

金児 栄治

- ① 15歳
 - ② 昭和20年5月29日の横浜大空襲で自宅が焼失して、バラックを建てて兄が建てた家に住んでいました。
 - ③ 人類が憎しみ合い、殺しあう愚かなことを二度と繰り返さないように、毎年8月第一日曜日平和聖日として札押をささげ、午後からは「平和を語る会」を開催しています。平和について考え、過去の戦争の過ちを一人ひとりが思い返し、風化してはなりません。
- 戦争を経験した者の一人として実際にあった事件を知らせたいと思います。
- 当時、天皇は「現代神（あらひとがみ）」と呼ばれ、絶対的な権力を持っていました。1939年1月16日、天皇は地方に出かけることになり、宮内省の人たちの付き添いも加わり大変大がかりとなりました。警察署からは白バイ二台が先導することとなっていました。その時の警察官が通る道を間違ってしまった大事件となりました。実はその警察官は体調が悪い同僚代わってその日急に交代をしたのでした。本人は責任を感じ、謹慎、のちに自殺を図ったのでした。幸い一命は取り留めることができたのですが、かつての戦争中には、もつともつと悲劇があったことと思います。
- 平和について私たちが考えるとき、まず絶対に二度と戦争を繰り返してはならないのです。

飛山 二平

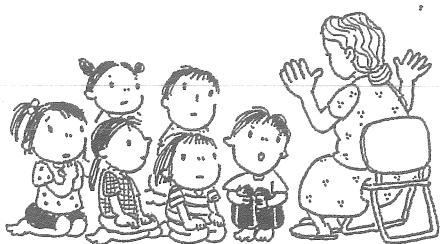
- ① 15歳
 - ② 勤労働員で保土ヶ谷化学でロケット燃料の過酸化水素の蒸留、濃縮、精製。残業夜勤空襲、防空壕へ避難など、危ない経験をしました。
 - ③ 昭和18年、20年頃を思い出すと、本当に平和の大切さを絶えず忘れずに過ごすことが大事だと思います。
- 島津 嘉夫
- ① 15歳
 - ② 勤労働員で工場で働いていた。
 - ③ 平和の意義をよく認識してください。
- 金児 和子
- ① 15歳
 - ② 疎開先の太田女学校の3年で勉強は中止。学校全体が工場となり憲兵の監視の下、兵器の一部を入れて送る発送係としての仕事をしていました。
 - ③ 戦争は人と人との殺し合いです。どんな正当な理由を主張しても自分たちの利害関係が根底にあります。戦争は人を狂わせ、親子・家族・恋人を引き離し一般人を巻き込み多大の犠牲がともなわれます。今では戦争を知らない世代の人が多くなりました。戦争の悲惨さ、二度と戦争を起こしてはならないと思います。人種を超えて、世界の人々が心を通わせ戦争のない平和な時が来るように、園児たちの毎年歌う「ぞうれっしや」の歌ではいつも涙を流し、あどけない顔で一生懸命歌うあの子どもたちが、戦争絶対反対の気持ちを持ち続けるよう、また私たちも近くの方から平和的關係を作っていくましよう。

坂本 正夫

- ① 15歳
 - ② 防空壕をつくりつつありました。
 - ③ 自分の創り主を覚えること
- 仁田 秀子
- ① 15歳
 - ② 女学校3年生。学校の体育館に正座して昭和天皇の終戦勅語を聞きました。
 - ③ 戦争は悪いこと。平和に暮らせる事は幸福ということ。

松崎 ウタエ

- ① 20歳
 - ② この先のことを思いながら夢中でした。食糧難でしたし、苦しい思い出だけ。
 - ③ これからも平和でありますように願っています。
- 子どもたちのために。





記念碑の前で集合写真

? 150年前に
植えられた松の木



閉ざされていた外国からの扉

それまでの日本は鎖国が続いており、特にキリスト教は厳しく禁止されていました。



オレよりえらい人がいるなんて許せん！
キリスト教を信じる者は処刑しろ！！

キリスト教を伝える宣教師

その後、キリスト教を伝えるために、たくさんの宣教師が危険を冒して日本にやってきました。宣教師たちは、日本語を勉強し、聖書の翻訳、医療や教育などの活動をしながら福音を語りかけました。

横浜海岸教会

日本人のための一番古いプロテスタント教会を見学し、礼拝をおさげしました。この教会は、ヘボン・ブラウン・パラ宣教師により1868年石造りの小さい会堂が建てられたのがはじめの教会だそうです。



横浜海岸教会



横浜海岸教会の鐘

1875年に、メアリー・ブライン宣教師から寄贈されたもので、震災や大戦からも守られ、毎週の礼拝の始まりを66回の音で知らせ続けています。



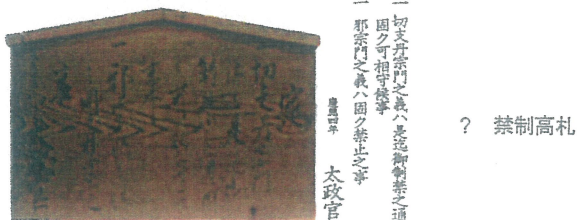
1853年 ペリー来航

1853年、4隻の黒船が浦賀に来航しました。黒船を率いるペリーは、日本に開港するよう強く要求しました。翌年再び来航し、日米和親条約を締結しました。



閉ざされていた外国からの扉

来航したペリー一行も、上陸して日本国内で礼拝することを禁止され、船上で礼拝しました。その後、ハリスの働きかけにより、「外国の人なら日本で礼拝してもよい」ことになりました。



ヘボン博士

ヘボン博士は医療を通してキリスト教を伝えるために日本に来たお医者さんです。日本語を勉強しながら「ヘボン式ローマ字」を作りました。ヘボン博士の作った和英辞書には、日本語を学びたい外国の人、英語を学びたい日本人に広く使われました。また、聖書の翻訳にも力をいれました。



ペリー公園・ペリー記念館見学

ペリーが上陸した久里浜にあるペリー公園・ペリー記念館に行きました。



閉ざされていた外国からの扉

ハリスは、すぐに世界中の教会に、「キリスト教を広める足がかりができたから宣教師をおくってください」と手紙を書きました。



ヘボン邸跡



? 地方合同庁舎の前にヘボン博士の記念碑があります

**キリスト教が伝わった
150年前を知ろう**

3年 田中 美優

150年前によこはまのみながかいらしました。そして、たくさんのおんききうしがやってきました。

びょういんやえいごの学校をしながらかみさまのことをたえましました。わたしもせんきょうしの人たちのようにかみさまのことをしらない人につたえたいです。そして、かみさまのことをしんじる人がいっぱいになってほしいです。

4年 澤野 頌

びつくりしたことは、ペリーが横浜でれいはいしてはいけなと言われたので、船の上でれいはいをしたことです。

黒船が4せき来たそうです。今来たなら、びつくりすると思います。

4年 根岸 咲花

私は、7月28日に教会学校のサマーバイブルスクールに行きました。今回は「キリスト教が伝わった150年前を知ろう」というテーマで色々なところをまわりました。

まず最初は、横浜海岸教会へ行きました。その教会は日本人が最初にたてた教会だそう。海岸教会には大きな鐘がありました。お礼拝の始まるの鐘は66回で、旧約聖書と新約聖書を合わせた数で、教会学校の始まりは新約聖書の27回だそうです。その大きい鐘を小さい音で鳴らしてもらった

ら、とても大きい音だったのでびつくりしました。またいつもあたたかっているとスベスベだったから、いっぱいならされてるんだなと思えました。その大きい鐘の音は桜木町まで聞こえたそうです。

その後は、ペリーが上陸した久里浜へ行きました。ペリー記念館という所にはペリーの写真や、肖像画がありました。肖像画は色々な絵がありました。もしペリーが日本に来ていなければ、キリスト教は広まっていなかったと思います。

その後、山手カトリック教会へ行きました。プロテスタントとカトリックのちがいが少し分かった気がしました。

5年 木下 愛

私は、キリスト教が伝わった150年前のことを知るために、先生や教会学校のお友達と一緒にバスツアーで見学して来ました。

最初に行った横浜海岸教会は日本人の教会として一番古いプロテスタントの教会だそうです。キリスト教を伝えるためにやってきたせん教師の人達が英語のじゆくを開いたり、いろいろがんばってくれて作られたそうです。教会の上の部屋には、とっても大きなチャーチベルがあつてびつくりしました。毎週、教会の礼拝が始まる時にベルを聖書の数の66回鳴らすそうです。そして子どもの礼拝の時は新約聖書の数の27回鳴らすと言われてました。教会の方がちよつとだけ鳴らしてくれた時、とてもきれいな音でした。桜木町の方まで聞こえた時もあると聞いてびつくりしました。それから、教会の建物の中にはかくれ十字架があると

いうので、みんなで一生涯命さがしました。

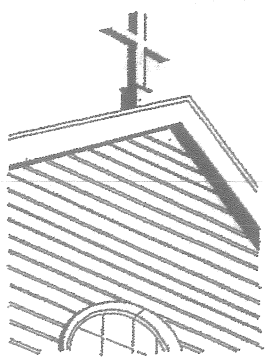
その後、うらがに行きました。外国の人が入れない日本で、捕らえられたりするかもしれないのに、ペリーさんは黒船4せきでやって来てすごい人だったんだなと思えました。でもペリーさんのがんばりで開港出来て、今、外国の人も自由に来れて良かったと思います。

それから、へボンさんの記念ひを見ました。へボンさんはお医者さんでしたがキリスト教を日本人に教えるために、日本のことや、日本語を勉強してへボン式ローマ字を作ったそうです。

最後にカトリック教会に行きました。ここにはイエス様の像の他にマリアさまの像もありました。カトリックもプロテスタントもキリスト教ですが、聖書の教え方が少しちがうというのを教えてもらいました。

150年前に、へボンさんや、その他のせん教師の人とかいろいろな人たちが、がんばって今まで、神さまの愛をつないで来てくれたから、今、私たちが野毛山キリストの教会に通うことが出来るんだなあと感謝しながらこれからも礼拝を守りたいと思います。

教会学校の先生やお友達と楽しく勉強できたサマーバイブルスクールでした。



5年 小竹 諒子

●ペリーについて

ペリー記念館へ向かうバスで、先生たちから教えてもらったペリーはとても家族を愛していたというのをペリー記念館の中にあつた手紙を読んで、バスの中でより理解できました。そして、日本を愛していたから開国しようよと、わざわざ遠い所から命がけで来たんだと思います。そんなペリーを悪者と思ひました。今では外国人がそばを通つても日本人がふつうに受け止められる人がほとんどだと思えますが、政治の中心のばくふが受けとめられないなんて、信じられませんか。なぜ受け入れられなかったのか、考えてみました。ずっとさくくし続けてきたので、いろいろな国の人たちを知らなかった、つまり知識を持っていなかったからです。

ペリーが日本に上陸し、開国を求めたことで、日本は世界に目を向けることができて、いろいろな文化があることをはじめ日本は知ったことがわかりました。文化を知ること、その国の人を理解できます。私も大きくなつたら、いろいろな国のことを知りたいです。

●海岸教会について

日本で初めて出来た、プロテスタントの教会です。教会で、サマーバイブルスクールに行つて全員で歌つた「よろこびひろげよう」は、とてもきれいにひびきました。それから、3階に上がり、大きなかねの音色をきかせてもらいました。低くて、地面

が少しゆれて、やさしい音色でした。かねがとても太かつたのでびっくりしました。十字架もたくさんさがしました。私は46個しか見つけられませんでした。とてもたくさんありました。

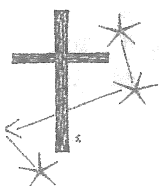
●山手カトリック教会

山手カトリック教会の中に入つて、まず一番最初にかべにかざられている「十字架の道行」の14場面をじっくりながめました。それから、だれだかわからない絵や像をちらつと見ました。絵や像は、イエス・マリア・ヨセフ・殉教者たちでした。

「十字架の道行」をながめている時、正直ぞつとしました。私にはもとから、考えすぎてしまうくせがあり、「自分も十字架にかけられたら」と思うととても怖くなつてしまふのでありました。ふと考えてみれば、殉教者も同じような運命に、自ら進んでしようとしたのですから、とつてもつてもイエスさま、神さまが大好きなんだと思います。

私もできれば殉教者のような人になりたいです。でも私はこわくてどきようが足りないので性格が変わらないと実現は不可能です。こうしてみると、神さま、イエスさまがいかに大きな方なのか、がしつかりわかるような気持ちになります。

今年のサマーバイブルスクールは楽しくていろいろ勉強になりました。今度は、どうしてキリスト教は3つの種類に分かれたのか知りたいです。



6年 根岸和花

私は28日にサマーバイブルスクールのバスツアーに参加しました。横浜海岸教会、ペリー記念館、へボンていあと、山手カトリック教会などキリスト教に関係するいろいろな所に行き、その中でも一番心に残つたのは、横浜海岸教会でのお話です。たくさんのお話を聞いて、どれも心に残りましたが、その中でも特に心に残つたお話は2つあります。

1つは、戦争中もずっと毎週、鐘が鳴らされ続けてきたということ。戦争中は、歌もうたえなかつたと、私は聞いたことがあります。キリスト教も、禁止されていたそうです。そんな中、鐘を鳴らす、ましてや、キリスト教の教会の鐘です。よく、牧師先生や礼拝にどう人たちは、つかまつたり殺されたりすることを恐れなかつたなあ、不思議に思いました。2つ目は、まだキリスト教が禁止されていたころ、全部で11人の人が洗いを受けたということ。この人たちにたいし、宣教師の先生方も「本当にいいのですか？殺されるかもしれないよ。」と言われ、心配されたそうです。私は、この人たちは本当に勇氣があるなあと感じました。私はこの2つの話に共通して見える、つかまえられる、殺されたりすることをおそれないということについて考えました。そうしたら、私なりの答えができました。それは、神さまを信じてその気持ちにゆるぎがないということでした。私もそのくらい神さまを信じる人になりたいなあと思ひました。

キリスト教が伝わった歴史をたどって

アンデレ 木下 不二香

私は、今回アンデレクラスより、他に四名のお母様方と共にバスツアーに参加させていただきました。

ペリーが浦賀に来航し、その後、横浜が開港し今年で150周年です。また、横浜にキリスト教を伝えるために、開港と共に外国から宣教師たちがやって来たのも150年前です。「プロテスタント宣教150年」という記念の年に、キリスト教の歴史を少しでも知ることが出来れば・・・と思

い参加させていただきました。

今回、歴史をたどって行って、心に強く残ったのが、ヘボン博士と外国から来日した多くの宣教師の姿です。ペリーさんの頑張りで開港したとはいえ、長い間鎖国を続けてキリスト教を禁止していた日本です。外国人に対しては、危ない国、一歩間違えば命を落としかねない危険を伴っていたことと思います。でも、そんな状況の中でも、私達日本人にキリスト教を・・・神様の愛を伝え続けてきたという事を知り、驚きました。ヘボンさん達は、医療や教育にも携わり、想像以上の努力があったことと思います。ヘボン式ローマ字が作られたからこそ、聖書を読めているのでしょうね。

私達が、今、こうして教会学校で礼拝を守る事が出来るのは、150年前宣教師の人達から始まり「神様の愛を伝えたい」という多くの人達の思いと努力が、つないでくれたからだという事を決して忘れてはいけないと思えました。

横浜海岸教会に行った時、大きなチャー

チベルのある部屋の窓から外を見ると、すぐそこには、赤レンガ倉庫や横浜港がありました。港はとても穏やかで、美しい眺めでした。150前のことを聞いていただけに、改めて「平和だなあ。」と感じました。そしてこれがずっとへ続くことを願い、今、親として『平和の大切さと神様の愛』を子どもたちに伝えて、その子供が親になつた時、またその子どもに伝えていって欲しいと思えました。

私事ですが、神様にご縁をいただき子どもたちが野毛山キリストの教会に通わせていただくことになりました。そして、私自身も、和子先生の下で礼拝を守らせていただいていることから「プロテスタント宣教150年」の記念の年に、娘と共にサマーバイブルスクールでキリスト教の歴史をたどれたことに感謝しています。

渡辺 小百合

キリスト教が日本に伝わるにあたり、キリスト教禁止令が掲げられており、布教活動が大変だったことを初めて知りました。そのために多くの宣教師の方々がキリスト教の良さ、イエスさまの愛を日本中にも伝えたいと一生懸命働きかけてくださったからこそ、今の横浜があり、この野毛山の教会があるんだと実感しました。

その中でも宣教師として日本に来たヘボン博士はとても素晴らしい人だと思います。キリスト教がゆるされていなかった日本でどうしてもキリスト教を伝えたいと思い、診療所を開き、診療を通して日本と日本人を知り、仲良くなるうと日本語の勉強までしたヘボン博士。この人は日本にとって、

とっても大きな影響をおよぼしたと思います。

また見てきた教会の中でたくさん違いがありました。日本で一番古いプロテスタント教会の横浜海岸教会では、十字架を正面にはつけてはいませんでした。それはつい十字架に向かつて祈ってしまうからでしょうか。しかし、教会の中には、あちらこちらに十字架が隠されていました。またベルの数も公同礼拝では66回(聖書の数)、教会学校では27回(新約聖書の数)などいろいろ考え工夫されていました。また、横浜ユニオン教会では、説教者と礼拝に来る人は平等であり、牧師は目立たないようにと段差はありませんでした。この野毛山教会と比べても、見かけ、考え方は違うところが見られました。みんなそれぞれ言えるのが、神さまの子として感謝の気持ちをもち、日々礼拝をささげていることです。

私はクリスチャンではなく、キリスト教を知ってからまだ日は浅いですが、神さまから頂いているものの素晴らしさを実感しました。日本にキリスト教が伝わり、横浜が開港され、野毛山の地にローズ先生ご夫妻が野毛山キリスト教会を設立し、そのことを園長先生をはじめたくさんの方々が受け継いでまもってきてくださいました。これからはとても素敵なことだと思います。これからも一人でも多くの方がキリスト教を知り、神さまの愛を感じ、平和にたくさん愛に満ちあふれた日々を送っていただけるようになったらと思います。そのためにも、今回学んだこと、感じたことを一人でも多くの方に伝えていきたいです。

柴田 翔子

今回のサマーバイブルスクール・バスツアーで、3つの教会を訪れ、それぞれの教会で歴史を感じ、私なりにキリスト教というものを学びました。

「横浜海岸教会」

日本で最初の日本人のためのプロテスタント教会、この一文がキリスト教との関わりがまだ長くない私にも歴史の重みを感じさせるものでした。

執事の方がお話ししてくださったことの中から、9人の若者が洗礼を受けたが、そのうちの2人がスパイであったという出来事に、昔の日本がどれほど不安感や不信感に包まれていたのだろうと感じました。

ペリーが日本に来航し、今の日本にとってたくさんの良いものが伝わったが、一方でペリーが来航したことがきつかつけとなつて結ばれた日米和親条約も不平等条約と言われていて、当時の方々は今の私が考えているよりも戸惑い不安であったと思います。横浜海岸教会は外観や中の様子も古めかしく趣を感じました。司式台や聖餐卓も高い位置にあつたり、十字架もなく普段見なれている野毛山の教会とは大分様子が違いました。

同じプロテスタントであっても、中心に神さまがいることに変わりはないけれども細かい部分では考え方もそれぞれ教会によって違うことを感じました。

「横浜ユニオンチャーチ」

こちらの教会もプロテスタントの教会ということでしたが、はじめに訪れた海岸教会とはまた雰囲気もかなり違う印象を受けました。ユニオンチャーチは最初の教会とい

うことでしたが、建物自体は新しくされておりどこか親しみやすくてあたたかみがあるように感じました。

お話の中から、聖餐卓が中央にあるのは、中心にいるのは神さまであり、そしてイエス・キリストであるからだと伺いました。

このことは、常識であるのかもしれませんが、私にとっては新たな発見でありました。このようないつひとつのことにも大切な意味が込められていて、予定には元々ありませんでしたが、こちらでお話を伺い、学ぶこと知ることが出来、良い経験となりました。

「カトリック山手教会」

こちらの教会は、先のプロテスタント教会とは異なり、カトリック教会ということでは雰囲気もがらりと変わっていました。

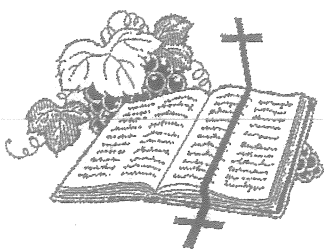
率直な感想ですが、こちらの教会はたくさんのものが美しく、どちらかというとここに礼拝を捧げに来るといっても観光客に來るといふような印象を受けてしまいました。もちろんカトリックであっても同じキリスト教なので中心にいつもいるのは神さまであることには変わりありませんが、「十字架に向かって敬意を表す」という言葉がパンフレットにあつたように、神さまよりも偶像に向かつているような気がしてなりませんでした。

主日礼拝も主日のミサと呼ばれていて、同じキリスト教であっても色々な違いがありました。ただ、建物や中はとても美しいものであふれていて、きつと日曜日にも美しい礼拝が行われているのではと思えました。聖母子像のステンドグラスがとてもきれいでした。

今回2つのプロテスタント教会に訪れ感じたことは、それぞれ教会の雰囲気や歴史は違うけれども、昔の宣教師がキリスト教を熱心に伝えて下さり、今もその歴史を大切にされていると感じました。

長い歴史の中で、神を信じたくても脅威にさらされ思うままに信仰生活を送ることが出来なかった方々のことを思うと、今、私が与えられている環境はとても恵まれているのだとあらためて気付かされました。

サマーバイブルスクールでスタッフとして子どもから大人の方々まで共に感じ学び合えた時間を過ごすことが出来ました。歴史の流れとしてしか知らなかったペリーの来航もこうしてキリスト教からの視点で見ると知らなかったことの方がはるかに多く、驚きもありました。教科書の中でしか知らなかったことを、バスで実際の場所に行き学ぶことが出来たのは本当に良い経験となりました。学んだことを大切にし、これからもキリスト教と関わっていききたいです。

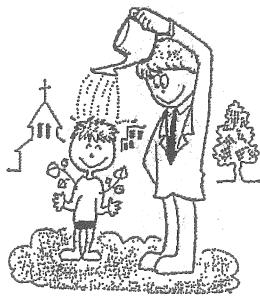


高久 由衣

今回、様々な横浜の歴史を学ぶことが出来る地を教会学校の子どもたちと共にバスで見学させていただき、横浜150年の歴史と同時に、キリスト伝来150周年であることを更に深く勉強できる機会となりました。

私が特に印象強く心に残った地は、横浜海岸教会です。150年前の日本を、正直なかなか想像するのは難しいのですが、将軍以上にえらい人はいないという考えを持つ侍が、頑なに外国との関わりを拒否し、キリスト教を禁じ受け入れなかった鎖国の時代を知れば知るほど、どうしてこの横浜の地に、キリスト教が伝わり今日にいたるのだろうかと思ふ興味を持ちました。その第一歩として教会が出来たまでにも時間がかかったことを知りました。キリスト教をどうにか日本に伝えようと、宣教師がたくさん来て、病気を癒して下さったり学校を作って下さったりと日本のためにも尽くして下さった様子が印象的でした。受け入れようとしなない日本に対し、あきらめずに色々な方法を考えて、伝えようという思いを強く持つて懸命に生きて方々に感謝する気持ちを持ちました。また、日本も、今のように新しい文化が海外からどんどん入ってくるような世の中とは全く違い、鎖国の中にあつて、不安だったり恐れたりしてしまふことも当然だったかもしれませぬ。それを乗りこえ、アメリカと条約を結び開国をすることになったここまでの歴史から、苦しい時期に頑張つて下さった方がたくさんいるから、今日の横浜があることを改めて実感することができました。ペ

リーをはじめ、宣教師のローズ先生ご夫妻が日本に足を運んで下さったから、この野毛山の地に、愛される教会と幼稚園があることも、当り前なのではなく、深い深い意味を感じます。様々な歴史スポットを見学し、バスで先生方が教えて下さった内容と合わせて、詳しく学ぶことが出来たとともに濃い一日でした。また教会学校のスタッフとして、子どもたちにこれからも伝えていくことの必要性を知り、教会学校のスタッフとしての在り方を学ぶことができました。今回、サマーバイブルスクールで得たことを忘れずに、礼拝を通して日々考えていこうと思えます。楽しい時を企画して下さり、本当にありがとうございました。どうぞごい



上田 葉奈

サマーバイブルスクールではまず、日本人のための一番古いプロテスタント教会、横浜海岸教会に行きました。執事の方のお話を聴き、多くのことを学びました。

プロテスタントは150年前、ペリーが伝えたもので、牧師ということ。カトリックは450年前にザビエルが伝え、司祭・祭司ということを学びました。このように違いはあるが、神さま・イエス様を大切にすゝる気持ちは同じということも学びました。また教会の大切な仕事として①神さまの愛を伝える(宣教)プリーチング②教える(教

育)ティーチング③癒し(病院・学校を作る)ヒーリングがあり、英語を教えたり、病院の役割りもしていたことを知り、驚きました。また教会堂の上のチャーチベルも実際に見て、触れることもできました。寄贈されてから、戦争中であつても、毎週日曜日に礼拝の始まりを知らせているそうです。戦時中でも一度も欠かしたことがないと思ひ、とても歴史があり、また人々の強い思いが込められているのだと感じました。

またユニオンチャーチも見学させていただくことで、プロテスタントの教会への知識も深めることができました。

山手カトリック教会ではマリア像などがあり、プロテスタントの教会とは全く違う印象を受けました。しかし、海岸教会の方のお話の通り、プロテスタントの教会では偶像礼拝になるのでマリア像がないことを知りました。カトリック教会でのマリア像は「信仰の模範となり、私たちはその生き方にならうよう」マリアを尊敬するために飾っているというパンフレットに書いてありました。私は今までプロテスタントとカトリックとは全く別のものであるという考えがありましたが、しかし様々なお話を聞いたり、山手カトリック教会でお祈りを捧げている人たちの姿を見て、私たちが神さまに求めているものは同じであり、教会も伝えることは同じであると感じました。また、プロテスタントが伝わり150年になりますますが、それまでには、キリスト教弾圧などがあり、決して楽に伝わったわけではない事、宣教師の苦勞を忘れない事も大切であると思ひました。

イエスさまと一緒に なかよく過ごそう

ひつじグループ

幼稚科ひつじグループは、「善いサマリア人のたとえ」についての絵本や紙芝居を読んで、それぞれが感じたことを話し合うことで、「仲よくすること」について深く考える時を持ちました。子どもたちから意見を聞くと、身近な家族や友だちと仲よくすることは大切だと意識していても、初めて会う人や知らない人と仲よくすることは、なかなか難しい：と感じていることが分かりました。しかし、「親切なサマリア人」という紙芝居を読んだ後には、「他の人に嫌な気持ちを抱けない方がいい」「人にやさしくすると自分が元気になるよ」などの意見が聞かれ、子どもたちは「難しい」と感じながらも他人に対して「やさしくしてあげたい」と思う気持ちを持っていて、それが人と人がつながる土台であり、仲よくなるきっかけなのではないかと話し合いました。最後に子どもたちが、ニコニコ笑顔の絵を描いて、やさしさの花をたくさん咲かせてくれました。イエス様が教えてくださったように、一人ひとりがひかりの子と過ごしていきたいと思えます。

サムエル・オリブ 一・二年生

一・二年生は、バングラディシユのアイリーンちゃんに手紙を書きました。援・協力を続けている5歳の女の子です。言葉も文化も人種も違うお友だちと、どうすれば仲良くできるかな？ どうすれば思いが通じるかな？ 皆で考えました。世界地図を見たり、昨年届いたアイリーンちゃんからの手紙を読み返したり：。字がまだ読めないアイリーンちゃんを思って、一人ひとりが絵を描きました。

アイリーンちゃんと私たちは、違う所はたくさんあるけれど、皆幸せに暮らしたいと思っていることは同じです。大人にとっで、人と違うことで焦ったり、人を否定したり：ひどくなると、それが原因で大きなケンカ(戦争)になってしまうこともあります。でも、手紙を一生懸命描く子どもたちは、そんな「違い」は気にせず、アイリーンちゃんが喜んでくれることだけを思っテーブルに向っているようでした。

皆、神さまの子どもとして、愛し合い、違いも認めあえる平和な世界になりますように：そんな気持ちでいっぱい、時間になりました。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、
みんないい。





よろこびひろげよう

よろこび ひろげよう
ちいさな ぼくたちだけで
イエスさまは、どんなときでも
あいして まもってください

さびしさ わすれよう
ちいさな ぼくたちだけで
イエスさまは、どんなときでも
あいして まもってください

あかるさ いつまでも
ちいさな ぼくたちだけで
イエスさまは、どんなときでも
あいして まもってください

みことば つたえよう
ちいさな ぼくたちだけで
イエスさまは、どんなときでも
あいして まもってください

みんな
神さまの愛
平和の君 イエスさまのことを
つたえよう